



# プレーパーク レポート

第13号

2023年6月  
小鹿野町



みどりの村の畑にサツマイモの苗を植えました。秋にみんなで  
おイモほりして、焚き火で焼き  
芋にするのが楽しみ！！

## 「やってみたいこと」ぜんぶできちゃう！

5月28日、令和5年度の初回のプレーパーク開催でした。久しぶりの開催にも関わらずリピーターの親子が遊べることを心待ちにしてくれており、60名を超える人でにぎわいました。

今回は遊び場開催中にみどりの村内にある畑にサツマイモの苗を植えました。苗の植え方を大人に教えてもらったのち、子どもたちは次々と苗を植えていきました。その勢いと真剣な表情、集中力には目を見張るものがありました。

大人からすると一見「お手伝い」として切り取られがちな、こういった風景も、強制ではなく子ども一人一人が「やってみたい」からこそ楽しく、そして遊びになるのです。

中には秋の収穫のことなど微塵も想像せずに、ひたすらに目の前の土と苗に魅了されて楽しんでいる幼児もいました。

「土に穴をあけ、苗を添えて土をまたかぶせる」単純な動作だからこそ、子どもも大人も自分でできるという喜びにつながります。

「もう終わり？もっとやりたかった！」という声もたくさん聴こえた時間でした。

次のページでは、他の遊びの様子も紹介していきます。



# 遊びの様子

この日、サツマイモの苗を植えることに次いで人気だった遊びは、ロープ遊具づくり、段ボール遊び、火おこし、虫捕り、木工、テントづくりなどでした。

テントづくりは今年2月の開催時、スタッフが強風をしのぐためにつくったものを再現。2月の時は防風テントとしてではなく、テントの屋根に寝ころぶ大人に内側から子どもがマッサージするというものでした。「あの時のあの遊びをまたやりたい!」という子どもたち発信の遊びでした。



プレーパークのメイン会場は「村の広場」ですが、子どもたちの遊びは時にエリアを超えて展開します。

今回は虫を目当てにみどりの村を探検。下の子供の広場に行ってみると排水溝に大きな大きなオニヤンマ! どうやらこの排水溝でヤゴとして育ち、さきほど羽化したばかりのようです。

居合わせた子どもたちは排水溝の隙間から網を延ばして見事オニヤンマを捕獲。虫にとっては受難の時だったかもしれませんが、子どもたちは大物ゲットに大喜びでメイン会場に凱旋しました。

プレーパークはみんなで作る遊び場です。遊びのきっかけづくりにこれまでもプレーリーダーが綱渡り（モンキーブリッジ）やブランコなどロープの遊具をつくってきました。その内、子どもたちからリクエストがあり、「今日はブランコがいい!」など、プレーリーダー主導ではない遊び場の展開が見えるようになってきています。

また、ロープの設置を手伝っている内に、子どもも木の高所にかかる方法やコツを覚えてきています。最近ではそんな子どもが木の枝にかけた1本のロープから名前のない遊びや遊具ができたりもしています。



ハイライト

そして、今回は遊びに来た大人の遊び心によって、どんどんと新しいタイプのロープの遊具や遊びが生み出されていました。

子どもにとって遊び環境はとても大切です。そして、「大人」こそ子どもにとって最大の環境となり得ます。これからもどんどん遊べる大人が増えていくことが、小鹿野の子育てや外遊びが盛り上がっていく秘訣なのだと思います。ぜひ、大人も遊びましょう!

